

22.6.24

『思いは叶う』という言葉があります。

この「思い」ですが、思いの強さによって叶う速度や大きさも異なってくるようです。「引き寄せの法則」というのを聞いたことがあるかも知れません。要は思いというのは、「引き寄せる力」ということだそうです。

先日、「だんな様は霊能力者」という本を古本屋で見つけました。こんな本を見つけては、真剣に読んでいる自分が、「たまたまなく大好き」なのですが、ここにこんなことが書いてありました。

だんな様は霊能力者なのですが、この霊能力者たちは、「この引き寄せる力」が非常に強い。「何かが欲しい、必要だ」と思っていると、それが目の前にパッと現れるそうです。

この「思い」に対しては、目に見えない世界で「審査」があるとのこと。

- ①「どのくらいほしいと思っているか」という「熱意」
- ②「それが手に入るために、実際に何をやっているか」という「努力」
- ③「それを何のために必要としているか」という「目的」

これらすべてにパスしないとダメだということです。

そして、「…だったらできるのに」という「できない理由」を探してしまう人は、審査対象には入らないそうです。

また、仮に必要なものがやってきたあとも、本当にその気持ちにウソがないかという「抜き打ち試験」みたいなものがあるそうです。

例えば、「この道を進もう」と思って順調にすすんでいかかと思うと、ある時、「地位やお金、人、安定した生活、名誉やポジション…といったものを捨てることになるかも知れない」という選択を迫られることがあるというのです。

要は、「覚悟」です。審査をくり抜け、それによって自分でも自分の「覚悟」が本物だと確信したとたん、再び物事が一気に動き始めて、実は「何も捨てるものはなかった」とあとで気がつくようになっている。

「何かを失うかもしれない」という恐怖感が、最大の敵なのだそうです。

22.6.17

3月ごろからはじめた減量も順調に進んでおり、今ほぼ70キロジャスト位です。73キロスタートだったので、ほぼ1キロペースで減っています。ズボンも履くものがなくなって困っておりますが…。

ただ、先日、事務所から車で出かけようとして、シフトレバーを握ったら、あれ、無い！あれれ…。

そう、結婚指輪が薬指に無いのです。普段から、はずすことのない指輪がない…。必死で探しましたね。車シートの下とか、隅々まで。事務所で掃除をしたときに外したかな…とか。

でも無い。一日中考えてたんですが、分からないので仕方なく、帰って妻に謝ることにしました。

「ごめん、大事なものが無くなった…」

といって、指を出したら、

「あんたケンカ売ってんのか！」

っといって、探していた指輪をくれました。布団のそばにあったそうです。

実は、減量をすることによって、指が細くなったんですね。結婚当初は、83キロありましたから、当時からすると、13キロも痩せているので、仕方ないですね。でも、あってほんと良かったです。

22.6.10

「心はどこにあるのやら…」喉であるとか、心臓であるとか、頭であるとか…。では、人間の記憶はどこに刻まれるのでしょうか？通常医学的には、脳ミソの中の記憶をつかさどるところに記憶されると考えられます。

確かにそうなのかも知れませんが、でもそうすると、死んで肉体が無くなってしまったら、その記憶は無くなってしまふことになるはず。

幽体離脱をして、フラッシュバックなどありえないはず。しかし、決してそうではない。脳ミソは、単に外界に対するアンテナの役目を果たしているだけ。

記憶というのは、良いことも悪いことも、すべて心、魂に記憶されるものだそうです。だから決してなくなる。魂の記憶は、次の生まれ変わりへと受け継がれていくものです。

皆さんの好きな数字は何ですか？ラッキーセブンの「7」ですか？それとも、末広がりの「8」ですか？

色々感じておられることも多いかと思いますが、私は基本的に「4」が好きです。

先日、子供と旅行へ行行ってホテルに泊まったときも、「4」と「9」の番号のつく部屋がないので、なんでかって聞かれました。でも「4」は基本的に良い番号だと思っています。「9」はあまり考えたことはありませんが、「9」のあとには、「10」があります。10は満たされるという意味で、苦のあとには福ですね。銀座まるかんの斎藤一人さんは「4」と「9」の数字が大好きだそうです。「4」と「9」の数字を大事にしたら、いい事が山ほど来ましたと。この大凶といわれている「4」と「9」の数字を大事にすると大吉に変わり、あなたの人生を「49」(よく)してくれる。とのこと。

22.6.3

鳥根県の宍道湖はいい所ですよ、とある方に言われました。それを聞いて、先日行ってきました。思えば実現するといいますが、2週間で実現しました。

行き道の途中、津山の近くに奈義町というところがあり、ここでは、化石の発掘をすることができます。その辺は、人類がまだ出現していない、1600万年前、海だったところで、その海底だったところが、陸地になったために、「ピカリア」という巻貝やカキや普通の2枚貝など多くの現物がでてくるので驚きです。

出雲大社も行きましたが、その近くに博物館(島根県立古代出雲歴史博物館)があります。それはそれは綺麗な博物館で、どれだけのお金をかけているのだろう・・・といった感じだったのですが、中に入ってみると、歴史の教科書の出ている、弥生時代の青銅器(銅鐸たく、銅剣)が、ズラリと並んでいました。なかなかの感動ものです。

また、帰りに湯原温泉というところに、立ち寄ったのですが、ダムの下の方の河原にある温泉で、誰でも入れる混浴、水着禁止の温泉です。川の下から温泉が湧き出ており、湯船の底は、河原と同じ、砂利です。

石鹸を使わないでください、中でお酒を飲まないでください、と注意書きが書かれてあるのですが、屋間から、思いっきりお酒やたばこを楽しんでおられました。

22.5.27

幸せ感というのは、人それぞれ違っているかと思いますが、幸福とは何ぞやということを考え続けて43年も経ちました？。基本は、健康、金銭、家庭というこの3本柱がバランス良く揃っていることではないかと思っています。

でも、一つ言えることは、幸せというのは、そんな難しいことではなく「目の前にいっぱいある」ということ。皆様とお話ができるのも幸せですし、毎日食事がとれるのも、仕事ができることも、幸せなことです。明日、死ぬかもしれないという人にとっては、朝、目が覚めただけでどれだけ幸せを感じられることでしょう。私は、ありがたくも、妻や子供にも恵まれています。世の中には、結婚できない人、子供ができない夫婦というものもたくさんおられます。

旦那さんはおられるのですが、子供さんがおられない方がいらっしやって、子供のいない家庭はどうかかな？と思いつつ、でも、とても幸せそうにしておられるので、聞いてみました。

「〇〇さんの旦那さんって、やさしいですか・・・？」

「やさしいです！」

即答でした。

そんなふうに応答のできるのを、大変うらやましく思いました。また、そう言ってもらえる旦那さんも幸せだなんて感動です。

私も妻や子供達にどう思われているか、わかりませんが、「無償の愛を与え続けられる」「やさしい夫」「やさしい父親」でありたいと、常々思っている次第です。

22.5.20

最近、病気になる気がしないと思ってました。そんな矢先、だんだん喉が痛くなってきたんですね。このままいくと、だんだん悪化して、鼻が詰まりだして、咳が出て、2週間グズグズすることになる・・・。これは、ヤバイ・・・って正直思いました。

それで「喉が痛いのをなんとかさこまで、終わらせようと思ったのです。薬を飲まずに治そうってね。今までだったら、調子が悪いのだから、大事をとって、よく寝ようとか、普段より、たくさん食べて、栄養をつけようとか考えていたのですが、そういう考えを一切捨てました。

ある霊能力者によると、寝ているときに、病気になったり、また、治ったりするのだということです。だから、とにかく寝るということ意識しました。そして寝すぎないように注意しました。

すると、3日目には、喉の痛みは、全くなくなっていました。鼻づまりや、咳も一度も出ずに済みました。

喉が痛くなれば、必ずといっていいほど、風邪の症状がでました。「早めにパブロン」とか言って、早めに薬を飲んで、なかなかこの風邪の症状を避けることが出来なかったのですが、今回は、薬を飲むこともなく、治ってしまったのは、本当に不思議です。

たぶん私は、今後癌になっても、治せる自信があります・・・？

22.5.12

先日ある社長様と知り合いになる機会があり、うちの事務所でお世話させていただくことになりました。

この間、その会社にお邪魔させていただいたのですが、室内がとても綺麗で、チリーつ落ちていないくらい、綺麗に掃除がされていました。

別棟の建物に移動するとき、本来ならスリッパから靴に履き替えて、移動しなければならないのですが、そのスリッパのまま結構です・・・とって案内して下さるくらい綺麗でした。

そして、その社長が事務所にこられました。用事を済ませて、帰り際に一言、おっしゃられた言葉が、「いつも事務所、綺麗にされてますね！」って。

そんなこと言われたのが初めてです。とっても嬉しかったです。

建物は古しい、綺麗と言ってもらえるような事務所でもないのですが、掃除だけは、毎日してますからね。見ている人は見えるんだと思いました。

やはり、自分の会社を綺麗にされているので、そういう見方をされるのだと思います。本当にありがたく、感謝の気持ちで一杯です。

22.5.13

恋と愛の違いは何ですか・・・？

誰しもが考えたことのある話ではないかと思いますが、如何でしょうか？

恋は、心が下にあって、下心。。。？愛は心が真ん中・・・。

私は、若いころ恋が発展して愛になるのだと、わけのわからないことを思っていました。

男女が好きどうしになったら、どんな感じになりますか・・・？

これは、一つの考え方に過ぎないと思いますが、恋とは求め合うもの。そして、愛とは、与え合うもの。ということです。だから、恋と愛とは、真逆のことだと考えても良いのかもしれませんが。

若い方が、結婚してうまくいかないのは、恋と愛とを錯覚するからなのだと思います。お互いに求め合うばかりではうまくいきません。実際に結婚してみると、恋愛感情はサーと抜けていきますから、気をつけてくださいね。

愛とは、与えるもの。見返りを求めない無償の愛です。

相手に「もっと愛してよ」などと愚痴を言ったりしますが、求める愛など存在しません。愛とはあくまで与えるもの。

男女間だけでなく、ひとがそれぞれ、愛を与えあっていれば、ほんとに良い会社や社会になるだろうと思います。

どうぞ、何かを期待して、何かを求めるのではなく、何かを与えよう、常にそんな気持ちでいて下さい。すればきっと、多くのものが自分に還ってくると思います。

22.5.12

子供が学校へ通うようになり、早1ヶ月が過ぎました。わりと朝の早い学校で、7時20分に、家を出て行きます。なので、6時半には起きなければなりません。また、給食が無いので、妻は弁当を作らなければならず、6時前には起きています。

先日、「マウス」が何とか・・・と喋っていたので、英語を習ってるの・・・？と思って聞いたら、「違う、パソコンよ」って言うんですね。まだ入学して1ヶ月も経っていないのに、パソコン？？？驚きました。そして、「明日、英語もあるよ」だって。やはり、私学は違うな・・・という感じでした。

そんなある日、子供が、お手紙をもらってきました。開けてみると、学校の授業料3か月分×十万円が、預金残高不足により、振替できませんでした・・・。教育にはお金がかかるということです。あと6年間、長いですね。どうなることやら・・・。

22.5.6

GWは如何でしたでしょうか？今年にはほんとに良い天気が続いて、お出かけされた方も多かったのではないかと思います。私は、ずーっと仕事でした。我々の仕事は、3月の確定申告が一番忙しいイメージがあるのですが、実は5月の方がもっと忙しいのです。日本の会社の大半は、3月決算であり、その会社の申告が5月となっているからです。妻や子供達は、親戚に預けて私はひたすら仕事、たくさん仕事をさせてもらえたという感じです。

ただ、気温の変化が激しくて、子供達は少し風邪をひいており、妻はその風邪をもらって熱を出していたようです。家族はみんなそうやって体調を崩しているのですが、私は、絶対に大丈夫という、最近、そんな自信があります。

病气って、いつなるか知っていますか？ある本が何かで読んだのですが、病气というのは、寝ている時になるそうです。私は、変な本ばかり読んでいるからかもしれませんが、

「衝撃」でした。病气というのは、寝たら治るものだと思っていたのに、寝ている間に、病気になるとはね・・・。

確かに、小さなころに、お腹が弱くて、よくお腹痛をおこしていたのですが、よく考えてみると、昼間は何ともなくて、朝起きたら調子が悪い。そんな感じでしたよね。

つまり、病气というのは、寝ている時に、あの世と交信をして、その間に病気になったり、あるいはそれが直ったりするということです。

だから、「寝すぎない」というのが重要なのだと思います。適度な睡眠時間を確保するというのが、一番大事だということ。江原啓之さんによると、あの世と一番交信できる時間帯は、1時～2時ごろだそうです。その時間帯を含んだ5時間くらいは、必ず睡眠をとってくださいとのことでした。

22.4.22

ココイチというカレー屋さんをご存知かと思いますが、なぜココイチというのかご存知ですか？創業者である、宗次徳二さんが、カレー店を出店するにあたり、名古屋から東京まで、新幹線で行って、有名どころを食べ歩いて、帰りの新幹線のなかで、「自分の店のカレーが一番、ここがいちばんや」と思ったことから、COCO巻番屋とつけたらしいです。COCOは、あの有名なファッションデザイナーのココ・シャネルのココに倣ってつけたものらしい。この名前を奥様に紙に書いて渡したら、COCOが素敵ねって明るい笑顔で応えてくれたそうです。

この宗次徳二さん、昨年の11月に「日本一の変人経営者」とかいう本を出されていて、多くの講演会やテレビにも出ておられたそうですが、実の親もわからず、「養父母」に育てられ、かなり不遇な幼少期を送っていたようです。15歳まで、電気の無い生活を送っていたというのですから・・・。昭和38年ですよ。。。にもかかわらず、自分が不幸だとか、惨めだと思ったことはなく、親を恨む気持ちも感情も湧いてこなかったというからスゴイですね。競輪に明け暮れた養父だったけれども、そんな養父がどうすれば喜んでくれるかを考えていたというのですから。親に感謝しろといいますが、そんなだったらどうだろうと思ってしまうですね。

平均の睡眠時間は、3～4時間。これを30年間続けたというからすごい。朝は4時起きでこの早起きの習慣だけは譲れないといっておられます。ただ、この早起きは、大変な苦行だったとも言っておられます。前著において「もともと意志が強固なわけではなかった。布団の中にいると「今日はやめよう」となってしまうに違いないので、午前4時10分に目覚ましを鳴ったら、とにかく何も考えずに飛び起きることにしていた。すると立ち上がってもまだ寝ぼけているから、ベッドからいちばん離れた場所に置いた時計がどこで鳴っているかわからず、早くベルを止めようとフラフラしてあちこちの壁にぶつかって、体当たりしたり冷蔵庫内のアイスコーヒーをガブ飲みしたりしているうちに、だんだん目が覚めてきて、約10分後には制服に着替えて車で出発するといった調子だった。」と書かれています。

その他、掃除も徹底してやっておられます。売上が落ちてきたら、キャンペーンなどに頼らなくても、掃除を徹底的にやれば、半年後には回復すると確信するようになったとおっしゃっています。今でも朝1時間、掃除をするらしい。また、商品などの形のあるものよりも、心を重視していたとも言っておられます。

学ぶべきことが、山積です。是非一度、「日本一の変人経営者」を読んでみてください。

先日、娘の入学式に行ってきました。校門を入るなり、会う人、会う人すべてが、元気良く、「おはようございます」「こんにちは」と挨拶をしてくれます。

受付を済ますと、6年生が、娘を教室まで案内してくれ、いたれりつくせりといった感じでした。

多くの感動をもたらした入学式でしたが、担任の先生の紹介のとき、先生が名前を呼ばれて、「ハイ！」と元気よく返事をしてもらったのが、とても印象的でした。また、先生のお話のなかで、こんなことを子供達に言うておられました。「皆さんの一番の宝物は何ですか？それは、皆さんの体です。これは、神様がただで皆さんに与えてくださった宝物なので、大切にしなければなりません。そして、世のため、人のためにその体を動かしてください・・・。」そんなことを話されていました。

私が、40歳近くになって、はじめて気づかされたようなことをこの一年生がすでに教わっているのです。とてもありがたいことだと思いました。いつまでもそのような教えを心に抱いて成長して欲しいと思います。

先日、致知という月刊誌の3月号を読んでいますと、「清く、正しく、美しく」をモットーとする宝塚歌劇団に昔、25の戒めというのがあり、貼り出されていたそうです。その名もブスの25箇条。ちょっと面白かったのでご紹介します。

ブスの25箇条

・笑顔がない・お礼を言わない・おいしいと言わない・目が輝いていない・精気がない
 ・いつも口がへ字の形をしている・自信がない・希望や信念がない・自分がブスであることを知らない・声小さくイジケている・自分が最も正しいと信じ込んでいる・グチをこぼす・他人をうらむ・責任転嫁がうまい・いつも周囲が悪いと思っている・他人にシツとする・他人につくさない・他人を信じない・謙虚さがなくゴウマンである・人のアドバイスや忠告を受け入れない・なんでもないことにキズつく・悲観的に物事を考える・問題意識を持っていない・存在自体が周囲を暗くする・人生においても仕事においても意欲がない。

あいさつ、返事、食事の作法、心の持ち方、など大切だといわれることが多いのですが、このブスの25箇条は、大変参考になる内容ではないでしょうか。特に一番目に「笑顔がない」というのがきていますが、やはりこの「笑顔」というのが、一番大切なものなのだと思います。

なかなか日本の景気は良くならない気がしますが、中国やアメリカはかなり良くなっているようです。実際のところ日本の輸出産業は、数量的には、かなりもとに戻っているけれども、円高の影響で金額的には、あまり良くなっていない。だから、この円高が円安に振れて行くと、かなり日本の状況も変わってくるのではないかと言われています。

先日、37歳の経営者の方とお話をしていました。ブランド物を扱っておられるので、リーマンショックの影響は、直撃したらしく、このままでは、リストラせざるを得ないところまでいったそうです。

その方がおっしゃっていたのは、「社員に仕事をして欲しい」ということ。つまり、そのかたのいう、「仕事」というのは、「作業」ではないということです。「作業」というと「つまらない」ものですが、「仕事」というのは、やっていて楽しいもの。そして皆で、色々な知恵を絞り、あーでもない、こーでもないと考えて意見を出し合う、そんな「グループ」でない「チーム」による「仕事」を大切にしているとのことでした。

私自身も、この「作業」が多いことに最近チョット嫌気がさしてきて、丁度そんなお話をされたので、大変共感した次第です。これから、どんどん「仕事」をしていきたいと思っています。

案の定、オリンピックが終わったというのを昨日初めて知ったのですが、金メダルはゼロで、銀が3つ、銅が2つですか。次の開催地は、ロシアのソチですね。

オリンピックは、4年に1回ですが、5年に1回くらいのペースで私がやっていることがあります。それは、減量です。

最近、少し体重を減らそうと思って、減量を始めました。過去2回くらいは、食べ過ぎて、太って、体調が悪くなったから、減量をやりました。それが丁度5年に1回位だったわけですが、今回は、別に体調が悪いわけでは、ありません。

体重も若干増えていますが、そんなに増えているわけでもありません。

最近ちょっと、「自分に厳しさが足りないな」ということから始めようと思ったのです。

今の予定では、8月位までやる予定です。5ヶ月ありますので、月に1kg程度減らして、5kg程度減らそうかなと思っています。

減量の良い点は、たくさんあると思います。

勘が鋭くなる。

目覚めが良くなる。

常に生じている空腹感、常に辛さを感じているわけですから、間違いなく、辛抱強くなります。精神修養には、最も良い。

私が、公認会計士の試験に受かった年も、実は減量をしていました。勉強していても、勉強する辛さより、空腹感の辛さのほうが勝るんですね。

試験当日は、ほとんど冴えまくりました。

ここぞ、という時には、ぜひ減量を試してみてください。お奨めします。あまり無理せずにやってくださいね。月1キロペースです。

とうとう、私の業界の年間最大行事である、確定申告が大詰めを迎えています。今年は、昨年に比べて、件数も少ないのに「なかなか進まないな」と思っていたのですが、なぜかという理由がわかりました・・・。その原因は、書類が集まらないというのが、第一です。景気が悪いと、仕事最優先になって、書類なんて・・・と思って整理、保存ができていない方が、非常に多い

ということです。持って来られても、全然足りていないんですね。明日、明後日にもってこられる方も結構います。「憂えれば崩れる」と言いますが、ほんとと仕事のことばかり、心配して、気をとられて、やっている、どこか肝心なところが抜け落ちてしまうのではないかと、思った次第です。書類整理は、とっても大切ですので、日々怠らずに、やっていただきたいと思います。どうぞ皆様もお気をつけください。

22.3.4

最近「誠の道」という言葉を聞きました。この「誠の道」というのは、成功のキーワードだそうです。

まことの

- ま…真似をする
- こ…こだわらずにやる
- と…取り敢えずやる

なんでも最初は、真似ごとの世界だと思います。守破離の守の部分です。取り敢えずやれば、その良さがわかるというものです。学んだことを、何もこだわらずに、真似をして、実践してみましょう。

22.2.25

バンクーバーで冬季オリンピックが開催されておりますが、みなさんご覧になられているでしょうか？

前回のトリノでもそうだったのですが、オリンピックを殆ど見ていません。私だけでしょうか？トリノの時、荒川静香のイナバウアーを、テレビで見たことなかったんですね。それで、荒川静香が金メダルをとって盛り上がっているときに、「イナバウアーってどんなんですか？」って、ある方に聞いたら、「へー、この世の中に、そんな人もいるんや…」ってえらく感動されたのを覚えてます。

結婚してから、「食事の際のテレビ禁止令」がでてから、殆どテレビを見るのがなくなりました。見ているのは、唯一「大河ドラマ」くらいだと思います。だから、うちの子供も、私と同じくらい殆どテレビを見ないです…。多分学校では、友達との話題についていけないでしょうね。

冬季オリンピックには無いですが、武道、特に剣道の世界では「残心」という言葉があるをご存知でしょうか。剣道で一本とったとします。やった！ヨッシャ！と思って、仮にガッツポーズをしたとすれば、その一本は「残心」がないということで、取り消しになります。

「武道における残心」とは、技を決めた後も心身ともに油断をしないこと。たとえ相手が完全に戦闘力を失ったかのように見えても、油断した隙を突いて反撃が来るのが有り得る。それを防ぎ、完全なる勝利へと導くのが残心。

勝っても、負けても平常心を保たなければなりません。

「勝負が決まってからの勝負」

- ・何があっても興奮しない・何があっても油断しない・感情を抑える、平常心
- ・ゆとり・周りを常に意識する・謙虚に勝つ、素直に負ける
- ・相手の気持ちを考える

ビジネスにおいても、大変重要な要素ではないかと思います。

残心なんかより、やっぱり感動の涙よ！嬉しかったり、悔しかったり、そんな思いを体で表現すれば良いじゃないか？そう思われる方もいらっしゃるかもしれませんがね。このオリンピックでも、残心のある方、無い方、そんな見方しても面白いのではないかと思います。

22.2.19

先日、黒田クロさんという、漫画家・イラストレーターの方のお話を聞く機会がございました。興味深い話がたくさんあったのですが、その一つに、ニュートンは、木からリンゴが落ちたから万有引力の法則を発見したと言われていますが、本当にそうでしょうか？何か引力のようなものがあるのではないかと考えていたところに、リンゴが落ちて、これだ！と思ったのではないのでしょうか？という話がありました。人は、何か物事を成しとげようとするとき、計画を立てなさい、夢を持ちなさい、志を高く、なんてことを言われますが、常にそのことについて考えている、意識しているから、日常のなかで、そのヒントが見つかるのではないかと思います。そして、人は物事に気がついて、行動するまで、最短0.2秒かかるそうですが、野球のピッチャーが150キロの速球で、投げた場合、キャッチャーミットまで0.44秒で届く。バットスイングのスピードが0.3秒かかり、気づきから行動まで、0.2秒かかるのであれば、合計0.5秒。これでは、150キロのボールは打てません。

しかし、バッターボックスに立って、ピッチャーの玉を予測することによって、これを打つことが可能になるということです。人生においても、チャンスを逃さないように、常にバッターボックスで150キロの玉を打つつもりで、夢や志を持ち続けられれば、必ずヒントや気づきが得られ、成功するということではないでしょうか。

22.2.4

昨日2月3日は、節分でした。豆まきなどされましたでしょうか？その節分の翌日が、立春。この節分というのは、本来、季「節」を「分」けるという意味で、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」という4つの節目の前日だそうです。そのなかで、春の分だけが、行事として残ったとのこと。

よく、占いなどで、「節分より前に生まれた方は、前の干支でみて下さい」とかいうのがありますが、私の誕生日も2月1日で、とてもややこしくて困ります。理由は良くわかりませんが、何はともあれ、「立春」で、もう一度、新たな年を迎えた気持ちで行きたいと思います。

昨日、息子になぞなぞを聞かれました。

①あるお店で、「開店」と「閉店」の看板がありました。なぜでしょう？

答え ⇒ 看板屋さんだから。「開店」と「閉店」の看板を売っていた。

②本を読んでいました。最初のページから1枚2枚3枚…。では、最後のページは？

答え ⇒ おしまい(枚)。
お商売も頭が固いと良い発想が生まれませんよ。柔らかく、柔らかく！
今回、私のブログもこれで「おしまい」にしておきます。

22.1.28

齊藤一人さんという方、ご存知の方も多いと思います。「銀座まるかん」というダイエット商品、健康食品などを扱っている会社の創業者ですが、1993年から2004年まで高額納税者の10位以内にランクインし、2003年には、累計納税額で日本一に選ばれた方です。

その方がおっしゃるには、この不況はまだ5年は続くだろうということです。

そして、「いい時代が来ました」とも言っておられます。

この世の中は、「神」という、一つの秩序があり、ご本人はその歩み、意思を見ているのだそうです。今までは、「暗黒の時代」。アメリカの国旗は、星条旗で、夜なのです。つまり、技術が優れているとかいうことで勝てば良かった時代なのだそうです。

今は、夜明け前で、暗黒時代の終わり。

その時に学ばなければならないことがあって、その学びを皆が終えたら朝日が昇り、不況も直るそうです。

それは、「日の丸」日本の時代だそうです。

誰か他にも同じようなことを言っておられた方がいらつしやいました。「日出る国」日本が世界を変えるのだと。

これからは、魂の時代、心の時代、心の豊かさが重視される時代だそうです。

だからこの不況は、心の豊かな人には関係がないそうです。

あらゆることに、感謝できる、大勢の人がそういう気持ちになったとき、この不況は終わるそうです。

心の世界が日本を変えていく、世界を変えていく、ほんとかな？とは思いますが、世界的な不況から脱出する一翼を私たち日本人は担っているということです。日本人の心が豊かになり、そんな言動を通じて、不況が終れば何も言うことはないですね。

22.1.27

「気」とか「気功」というのをご存知かと思えます。

病気が治ったり、スプーンが曲がったりするという不思議な力です。それをちょっと習いに行こうかなと。詳しいことはわかりませんが、「気」というのは、「明け方意識」がもたらすものだそうです。つまり、眠りから覚めるときで、「無意識」な状態と「意識」のある状態とが錯綜しているような状況のときに、自分ではコントロールできない自律神経やホルモンの調整を受け持つ、脳幹や視床下部といった部位の働きが活性化するのだそうです。「意識と無意識を開通できる境地」に達すれば、「気」をコントロールできるようになるそうです。

正夢なんか、朝方に見ることが多く、私も経験があります。私の母親の夢も非常に良く当たるのですが、これも朝方に見るそうです。「明け方意識」はそんな不思議な力をもたらすものなのでしょうね。

私が、スプーンを曲げられるようになるかどうかは、わかりませんが、その時には、会計士廃業？かも知れません。

22.1.21

こんなジョークがあります。

教育現場の方々へ

「戦後の民主主義のなかで自由を重んじるあまり、偏った教育がなされてきた。その弊害が今になって現れている。カネ、カネ、カネ、の世の中だ。

そこで、先生たちは子供たちに声を大にして教えるべきだ。

世の中はカネだけではないことを。株もあれば、債券や、土地や、金塊もあるのだ、と。(毎日笑って半年笑えるジョーク世界一アカデミー出版)

面白いですか？どう思われましたでしょうか？

世の中はカネだけではないというのは、「お金や物がすべてである。お金があれば何でもできる・・・」というような物質社会に対する批判であり、もっと大切な心の世界のようなものを忘れてはいけないという戒めであると思います。でも、このジョークにはどこか納得するものがあるのです。

それは、カネだけではなく、株も、債券も、土地も金塊もあるというくだりです。今の世の中は、本当に変化が早いし、動きが大きい。それに、ついていかなければならない現実というものがあるのに、皆さんは「お金」だけで貯金していませんか？しかも、日本円で貯金していませんか？ということです。株もあれば、債券も、土地も、金塊もあるのですよ、ということです。今のよう、円高になって、これからどうなると思いますか？株価が7000円台になったとき、何かをされましたか？土地やお金の価値がこれからどうなると思いますか？ということを考えて、行動する必要性もあると私は思います。

決して、投機的なことをおすすめているわけではありません。自己防衛をしてくださいと言っているのです。仮に、これから円安になるとすれば、対外的には、自分のもっているお金の価値が目減りするのです。目減りするのを黙って指をくわえて見ているだけでいいですか？どちらへ転ぶかは、あくまで予想でしかないので、「こうすべきです」とは言えません。しかし、「お金」という種類の資産だけをもっているのは、危険な時代ではないかと思えます。リスク分散のために、様々な種類の資産に変えておく必要があるのではないかと思えます。この日本という国の財政事情は破綻寸前ですので、国債などはあまりおすすめてきませんね。

22.1.14

先日、下の子供が「一輪車が欲しい」というものですから、自転車屋さんに行ってきました。昔ながらの個人でやっておられる自転車屋さんは、殆どみられなくなりましたね。殆どが、量販店みたいなところですよ。

家の近くにもそんなお店がいくつかあります。
コンズサイクル、遊輪館、ピーコック、あさひ・・・
どの店もズラ一つと自転車を並べて展示する、良く似た販売形態です。
そして、どの店も決して、値引きをしないというのが、特徴かも知れません。
では、このなかで、一番規模の大きな自転車屋さんには、どれでしょう？
「あさひ」ですね。この会社、実は、東証一部上場企業で、2004年8月に上場、本社は大阪、全国に196店舗、22年2月期予想は、売上258億、最終利益が20億程度を見込んでいます。株価は1300円程度。全国で最大規模の自転車屋さんといえます。
創業者である、下田進社長がこの店のスタイルを築かれたのですが、
例えば、陳列の仕方については、
・同じ色の自転車を隣合わせで並べない
・白い壁の近くに、灰色などの薄い色の自転車を並べない
とかいったルールがあるそうです。そういったルールどおりになされているかどうか、各店舗を巡回してまわられるそうです。
そして常に店の「入り口」に気を配って、お客さんが来られたら、自分が真っ先に「いらっしゃいませ」と言うそうです。そして、「いらっしゃいませ」という声のトーンは、普段の話し方よりもかなり高くなるそうです。これは、お客さんにとって心地の良い音の高さがあるからだということです。
それから、「掃除」ですが、この会社は「手が空いたら掃除」だそうです。お客さんにとって良い店とは何だろうか。と考えたときに、「綺麗で清潔で、お客さんにワクワク、ドキドキしながら自転車を気持ちよく選んでいただける店」というふうに考えておられ、掃除は「あさひ」のすべての基本だと言っておられます。
挨拶、掃除といった、大変基本的なことを上場企業の社長さんはちゃんとやっているということです。やれば、株式上場も夢ではないということではないでしょうか。どうぞ上場会社の社長となつていただいて、莫大な財産を築き、またその莫大な財産を世のため人のため費やしていただければ、こんなに素晴らしいことはないのではないかと思います。

22.1.7

明けましておめでとうございます。
本年もどうぞ宜しく願い致します。
お正月は、どのようにお過ごしになられたでしょうか。
お正月といえば、初詣。
私は、この正月は、神社ばかり行ってたような気がします。
といっても、氏神様である藤森神社と伏見稲荷だけですが・・・
私の事務所が、伏見稲荷の近くなので、2日目に朝9時ごろ、伏見稲荷へ行こうと思い、でも歩いたら時間もかかるし、しんどいので、自転車で行くと思って出かけたのですが、伏見稲荷の駅前から、すでに人ゴミでした。自転車に乗っていると、警察の方が「その自転車に乗っている方、降りてください！」と・・・。何のために自転車に乗ってきたかわからない状態。そして、境内に入ったまではいいのですが、自転車を置くところがない・・・。そのまま、揉まずに事務所へ帰ってきました。
仕方がないので、翌日、家族と皆で行くことにしました。いつものコースは、千本鳥居から、三ツ辻まで行って、ぐるっと一周して帰ってくるのですが、子供を連れて行くと、どうしても子供が歩くのを嫌がるので、どこかで抱っこをしなければならず、結構辛い。
でも今年は、違いました。子供たちが成長しました。幾らでも元気よく歩いてくれるので、「じゃ頂上まで行こう」とのことで、初めて頂上まで行きました。ほんと子供の成長は早いですね。
四ツ辻をこえて暫く行くと、眼力社というところに立ち寄りました。
「眼の病がよくなる」「先見の明・眼力が授かる」というご利益があるとのことで、商売人、企業経営者、相場関係者、学生さんなど全国からお参りにこられるとのことです。そこで、「眼力社さんの書」を買ってきました。「謙虚と感謝」というのが、一番代表的なものだそうです。私は「幸福」というのを買いました。とても美しい字で感動します。
私が神社で求めているものは「他力本願」ですが、今年は「自力本願」で自らの人生を切り開いていきたいものです。
本年も宜しく願い致します。

21.12.24

年の瀬も迫ると、一年を振り返って反省し、新年に向けて決意を新たにしている経営者も多いと思います。しかし、年末になつたからといって、改めてその年を振り返るのではなく、日々反省し、日々決意を新たにしたいものです。
昔なら、一年を丸ごと反省するというのもよかつたのかもしれませんが、今は経営環境の変化が劇的に早くなっています。流行、消費意欲、技術革新など、月単位、日単位、日新月歩で変わっていくため、一年を単位にしていると、ライバルに遅れをとってしまいます。また、年単位だと正確さに欠けます。一年に起きたことを丸ごと思い出そうとしても無理な話です。
年末の大掃除。これが、会社の問題点を放置する温床になっている可能性もあります。書類、在庫、情報の整理は、年末にまとめてではなく、日ごろから整理を心がけ、何事も後回しにはしないように注意したいものです。

21.12.17

最近、道端に落ちているゴミなどが気になるようになって、できるだけ拾うようにしているのですが、その影響もあつてか、落とし物もよく拾うようになりました。昨日もポシェットのような小さなカバンが落ちていたので、交番に持っていきました。通帳が入っていました。財布も拾ったことがあるのですが、持ち物にはあまり変なものは、入れないほうがいいですね。交番では、拾った私の目の前で、入っているものをすべて並べていきました。お金は抜かれていて、免許証、カード類、社員証などが入っていて、本人の名前も顔もわかりました。ついでに、飲み屋さんでもらった、お姉さんの名刺(携帯番号が手書きで書いてある)などがありました。くれぐれも気をつけてくださいね。
そして必ず、最後に求められるのが署名です。それは、拾得物の報奨金を放棄されますかという内容です。なんのためらい

もなく、「放棄します」で署名をするのですが、もし1億円を拾ったら何のためらいもなく放棄できるだろうか？と要らん心配をしてしまった今日この頃です。

21.12.10

私は日々「早起き」の実践をしています。目がさめたらサッと起きようとするのですが、これがなかなかできません。でも最近、そのコツがわかりました。それは、時計を見ないで起きるということです。「目が覚めたらその瞬間、さっと起きる。それから時計を見る」ということです。どうしても時計をみると、まだ〇〇時か・・・、あと10分だけ・・・といて、2度寝、3度寝を繰り返してしまいます。何時か分からない真っ暗な状態で起きることが必要だということです。

話は変わりますが、先日、子供の学芸会に行ってきました。そのなかで、6年生は、地獄行きの・・・という天国と地獄をテーマにした劇をやっていたのですが、ちょうど私も実はそのような本を読んでいました。どれくらいの劫(ごう)をすれば、地獄行きかという、1万5千劫以上(最下段の地獄界は、1億5千万劫以上)だそうです。1劫とは、どのようなことかという「罪なき人一人に冷水を浴びせて罵倒し、5、6回殴打したあげく、2、3回足蹴りする1回分の罪に匹敵する」そうです。そうエンマ大王が言っているそうです。

では、天国へ行くには、どれほどの徳を積まなければいけないかというと、一番低い第三天国で15万功の徳が必要。第一天国に入るには、1億5千万功の徳が必要だそうです。この1功は、「寝たきり老人を3日間徹夜で看病し、衣服や食べ物、飲み物を与えた行為に匹敵する」のだそうです。

これは天国界を仕切る神様に直接お聞きしたそうです。本当がどうかは知りません。ご参考まで。

21.11.26

自分を大切に、自分の個性をできるだけ伸ばして、世のため人のために働かすことが必要だといわれます。これは自分の長所を生かすということではないでしょうか。自分自身も、いったい長所は何なのか、何を社会に役立てれば良いのか、小さいころは、ずーと考え続けていた毎日ではなかったかと思えます。

今、親の立場となり、子育てをするにあたって常にそれを考えながら子供と接しているつもりです。ただ、子供が一体、どのような能力を有しているのか、どのような個性があって、それをどのように伸ばせばよいのか、正直なところわかりません。

最近、子供がある小学校の受験をするということで、私も面接に行きました。そのとき聞かれたことのひとつが、「子供の長所、短所を述べてください。そして、その長所を生かすために普段心がけていることは何ですか？」という質問でした。

子供の長所を伸ばしてやる、そして、世のため、人のために役に立つ人間に育てるのが、親や学校の役目だということなのでしょう。様々な可能性を求めて、習い事をさせたり、塾に通わせたり、ほんとに時間もかかるし出費も多くて大変ですが、これも究極的には、こどもの長所を伸ばして社会に役立てることが最大の目的ではないかと思えます。

会社における経営者の役割は、子育てと同じことではないでしょうか。従業員の長所、潜在能力をいかに引き出してやるかが大切なことだと思います。様々なことに挑戦させて、失敗も、無駄もありながら、じっくり育てていく必要性を感じています。

21.11.19

「ランチェスター法則」というのを聞いたことがあると思えます。

強者の法則、弱者の法則というのがあり、日本の会社の殆どが中小企業であるように、経営者の皆様の殆どが、次のような弱者の戦略をとる必要があるということです。

商品・・・遠くに運びにくい物、特殊用途、使用頻度の低いもの
地域・・・営業地域を狭く、人口の少ないところ、海・山・川で閉ざされているところ
客層・・・特定の人を相手に、人間関係中心、直販(インターネット)

つまり、商品、地域、客層を絞り込み、特定の分野、領域など、市場規模が小さなもので一番になるということがポイントだといえます。

しかし、これは多くのものを捨てる覚悟が必要です。取り敢えず販売していれば、たまに売れるのに・・・という商品や地域や顧客を捨てていかなければならないということです。

そのような時に、必要なものは何でしょうか？それは、信じることではないかと思えます。この商品なら必ずいける、この地域は大丈夫、この客層なら絶対売れると信じないと、他を捨てることはできないからです。

こも言いながら、当事務所においては、開業以来最大の懸案事項でありまして、トータルなサービスを提供するということと、特定の分野に特化するということの葛藤が常にあります。じゃあ客層を絞ろうかと思つて、「女性専門の会計事務所」はどうか？と冗談まじりで、でも、ちょっとだけ真剣に考えている今日この頃であります。

21.11.12

皆さんは、常に「こうなりたい」とイメージしていることはありますか？

元プロ野球選手の野茂投手の話です。野球投手は、調子の良いとき、悪いとき、色々あったかと思いますが、

「怪我で投げられなかったり、調子が悪くて成績が上がらないときでも、日本シリーズで投げているイメージを忘れたことはありません。メジャーに行くから、ワールドシリーズのマウンドに立っているイメージを強く持っていました。昨年、引退を決めるまでです。」「これは野球選手だけでなく、成功した経営者も同じで、大きな夢のイメージをいつまでも、無くさないでいる。」と言っています。

そして、なるほどと思つたのは、「イメージが現実のものとして近づいてくる感覚」も成功した経営者と同じだと。それは、「すぐリズムが良くなって、不利なことがあっても軽く乗り越えられる感覚」だということです。こういうリズムを一旦失うと、元に戻すのはかなり大変だそうです。だから野茂投手は、リズム良く目標に向かっていく感覚を凄く大切にしてきたそうです。

良い結果を出すには、

1. イメージを大きく持ち続けること
2. 普段からいいリズムでいること。

私も意識していきたいと思っております。

21.11.4

以前、「3代目は、身上つぶす」という言葉があります。初代がたいへんな苦勞をして財を築いても、2代目はその財を維持するのがやつとで、3代目になると初代の苦勞も知らずに散財をして、やがては没落してしまうというのが、一般的なパターンだということです。しかし、ある本を読んでいまして、違った視点から、その理由が書いてありました。つまり、財産を失うのは、2代目、3代目のドラ息子のせいだといわれるが、実はそうではなく、そもそもの原因は、初代の財のつくり方に、問題があったからだというのです。例えば、人から怨みをかたり、他人を不幸に陥れて築いた財は、ほとんどとっていいくらい3代目までに、無くなってしまう運命にあるということです。つまり、その財産には、人々の怨み辛みが染み込んでいるからだというのです。「お前ばかり、いい思いをしやがって。俺たちの苦勞や悲しみも知らないで・・・。」そんなふうに、思われている限り、財産は維持できないということです。

私も事務所の創業者であります。しっかりとした理念に基づいて、世のため人のために財を成していかなければ、後々の子孫に迷惑をかけてしまうこととなりますので、精進しなければならぬと思っております。

21.10.15

さて先日、私が担当している、とある大学の講義で、アンケートをとりました。その項目の一つに、「将来何になりたいですか?」というのがあります。科目が「税務会計論」ですので、税理士になりたい。会計士になりたい。というのもあるのですが、女性の多い大学ですので、「お嫁さんになりたい」「結婚するまでは働いて、主婦になりたい」というのがかなりの割合ありました。

福島正伸さんってご存知でしょうか。たくさん本を書いておられて、講演活動を精力的にされておられる方です。その福島さんも以前、中学生に質問をされたそうです。「将来の夢は?」という質問です。様々な回答があるわけですが、中には、「駅前でティッシュペーパーを配りたい」とか「スーパーでレジを打ちたい」、「共稼ぎの主婦になりたい」とかあったそうです。「それって夢?」今そう思われた方はいませんか? 福島さんもそう思ったようです。

職業に上下の貴賤はないといわれますが、いつのまにか、大人は損得でものごとを考えるようになるものです。

でも福島さんは、思いなおしたんです。「なぜ、これを夢と思わなくなったんだろう?」って。「夢が無いのは、実は自分じゃないのか?」って。そう思って、校長先生のところに謝りに行ったそうです。そしたら、ある1人の先生がとても大切なことを言ってくれたそうです。

「子供というのは、笑顔で生きている大人を見て、その大人がやっていることを夢にするんですよ」「だから、駅前で、笑顔でティッシュを配っておられたのではないですか? 笑顔でレジを打っておられたのではないですか? 共働きだけど笑顔でお仕事をされてたのではないですか?」ということです。私の生徒さんについていえば、お母さんはいつも笑顔で幸せそうに主婦をしておられるのではないですか? ということです。

笑顔です。皆さん、笑顔でまいりましょう!

21.10.1

先日、小雨が降る日のバス停で、バスを待っていると、3歳くらいの女の子が、ひとり傘をさしてやってきました。近所に住んでいる子らしいのですが、ジーっと私の顔をみているのです。皆さんは、このような経験はないですか? どうせなら、綺麗なお姉さんでも見つめてくれれば嬉しいのですが・・・。私は、何回かあります。昔、マクドナルドで、ハンバーガーを食べていたときもそうでした。共通するのは、いずれも、とても人なつっこいということです。マクドナルドのお話を先にしますと、「お母さんは?」と聞くと、指をさすんです。「ん、どこ?」ってきくと、パチンコ屋なんですね。娘をマクドナルドで餌を与えるようにして、自分はパチンコへ行っている。この人なつっこさは何なのかということ、「愛情に飢えている」ということなんです。子供の心は枯れきっているのに、親は自分の好きなことをして自分の心を満たしている。

だから、今回バス停で待っていたときも、瞬間的にそう思いました。淋しがついているんだなって。愛情に飢えているんだなって。そして、同じように聞きました。「お母さんは?」そうすると、「お仕事」って。じゃ、お家でお留守番してるの? ってきくと、首を振るんです。誰がいるの? ってきくと、「お父さん」って言うんですね。でも、お父さんは、一日ずっと子供と一緒に遊んでやったりすることはないと思います。テレビを見たり、新聞を読んだり、自分の好きなことをするものです。そんなお家にも、子供はつまらなくて仕方が無いのでしょう。私が話しかけると、とても嬉しそうにお話をしてくれるのです。お父さんがどんな状況でお家にいるのかは、わかりません。もしかすると、この不況のさなか定職のない状態なのかも知れません。もしそうだとすれば、この景気の悪さというのは、親だけの話でなく、子供の心も淋しく曇らせてしまうものだという事になります。

皆様ももどんなに厳しい時代であっても心が荒まないように、心だけは豊かであっていただきたい、そんな風に思っております。

そこまでやるか

ある日、致知出版社の藤尾社長が京都で講演をなさるとのことので、申し込みをしました。すると、翌日「致知出版社の〇〇ですが、この度はお申し込みありがとうございます。」と丁寧なお礼の電話。たかが講演会に出席するだけなのに・・・、これを申し込まれたすべての人にやっておられるのかな? その後、また電話があり、「講演会の後、一度お会いさせていただきたいので、事務所へお伺いさせていただいても宜しいでしょうか?」時間もあいていたので「いいですよ」とお答えしました。しかし、そうは言ったものの、一体何しにくるのだろう? 取材? そして先日、講演会に出席し、予想をはるかに上回る300名近い出席者があり会場は熱気ムンムンという感じで大盛況でした。翌日、約束通り、〇〇様が事務所に来られました。昨日の講演会の内容や世間話から始まりました。しかし、永遠にそのような話ばかりが続くので、さりげなく聞いてみました。「今日は、なぜ、わざわざ私の事務所まで?」すると、返ってきた答えは、「・・・昨日のお礼を言いに来ました」「・・・? ? ?」「・・・? ? ?」ただ、それだけのため・・・。正直なところ言葉がでませんでした。朝9時に来られました。私の

事務所がその日一番目だったのでしょうか。「これから、昨日ご出席いただいた300名近い方々を一軒一軒、お礼を言いに行きます。すべてまわるのに2ヶ月位はかかるでしょう。」と軽く言っておられました。脱帽でした。

仕事への想い

「仕事はテクニクではない」といわれます。過去の成功者が、「HOW TO本」を読んで成功したのでしょうか？成功とは、その人の「こうしたい」という「想い」が実現するだけのことではないでしょうか？その想いの強さの加減が最も影響し、その想いのなかで、知恵やアイデアが湧いてくる、良い出会いやタイミング、或いは、きっかけのようなものに巡りあえるということではないでしょうか。経営コンサルタントが偉そうなことを言いながらも、自分で商売を成功させることができないのは、商売に対する「想い」がないからに他なりません。コンサルタントは、お客様を成功させることに想いがあるのであって、自分が商売して成功しようという想いはもともとないのです。成功の理由は他にも色々あると思いますが、「HOW TO本」でないことは確かでしょう。

「喜ばれる」「感謝される」というのは、仕事をするうえでの動機づけにつながるということに異論はありません。もしかすると、我々の業界はそのような経験を最も得やすい業界の一つなかも知れません。そのような感動が得られない仕事であれば、私はとっくにやめていたでしょう。では、この業界で喜ばれることは何でしょうか？感謝されることは何でしょうか？この点について、一般の人は理解していないことが多いように思います。敢えて会計士という仕事に限って言うならば、「数字を正しくあわせること」これだけで、感謝されるのです。会計事務所の多くは、記帳代行という仕事を請負い、その労力の程度について、お客様が理解していないことから、これを請け負っても感謝されることは殆どありません。やって「当たり前」という感覚です。しかし実際には、多くの検討しなければならない事項が潜んでいます。プロにしかわからない世界であり、中小企業ではなかなかその域へ辿りついていただけないのが残念です。

個人主義という話の続きとして、最近は何かを選ぶというとき、その選択方法が、自分中心になっているように思います。他人の意見を素直に聞いて、そのとおりにすることを嫌い、何でも自分で決めなければ気がすまない。自分で決めたことであれば、仮にそれで損をしたとしても納得ができるという感覚です。その気持ちはわからないでもありません。これは、いいように理解すれば「自分」というもの、「自分の価値観」を持っているということになります。しかし、とすると自分の殻のなかに閉じこもって、自分の狭い価値観だけで判断するという結果を招くことにもなりかねません。先人に学ぶということはやはり重要でしょう。他人の意見に素直に耳を傾けるという謙虚な姿勢だけは、持ち続けたいものです。

私は、毎週土曜日に毎日新聞の折込に入っている、「フロントランナー」という記事を読むのを楽しみにしています。先日、元マイクロソフト会長のビル・ゲイツ氏の話が載っていました。この世界で最も成功した企業家が、経営の一線から退いて、慈善活動に軸足を移すという内容です。「MSの成功で幸運にも稼いだお金は、最善の方法で社会に還元すべきだとずっと思ってきたんだ。」という彼の言葉は、アメリカに習い個人主義が当然ようになってきた今の日本人の考え方とは、全く次元の異なるものではないでしょうか。

お金儲けは、目的が先だと言う人がいます。つまり、何のためにお金儲けをするのか、何にお金を使うのかという、「出口」を考えるのが先だということです。ネットバブル等で一瞬にして泡銭を得た人たちに、それら全てのお金の使い道を明確にしているひとは、そう少ないでしょう。また、それらを全て使いきる勇気も無いのではないのでしょうか？

ゲイツ氏は、自分の財産の大半をゲイツ財団に寄付するという。子供が自分の力とは関係なく、大きな財産を手にするのは、本人たちにも社会にとってもいいことではないとも言っておられます。もったもな話ではありますが、一般人にはなかなかできないことだと思います。慈善団体で活躍したご両親など、ゲイツ家のなかにある「事業で得た利益は社会に還元する」という教えがあるからこそ、このような物事の考え方ができるのかも知れません。

しかし、もし地球の創造主や神様がいて、誰かにお金を与えようとするのであれば、このような考え方をもった人達に与えるのは至極当然のことではないのでしょうか。

生きていて「不思議だな」と思うことがよくあります。特に感じるのは、初めて訪れた「場所」です。たとえば、家族で初めてある場所に遊びに行ったらとしましょう。すると、数ヶ月後にまたその場所を訪れることになったりします。こんどは、その近辺に住む人に会うことになったり、仕事で行く用事ができたりする。これは偶然と言えばそれまでですが、そんなことがあまりにも多いような気がします。

また、あるときに同じような仕事が続く、或いは、あるところで質問されたことが、その後、いろんなところで同じことを質問されるといったことは、一度や二度の話ではありません。私には、それが何を意味するのか分かりません。ただ、毎日を精一杯、無駄にせず生きていくことが、明日へつながるのだということを見せてくれているような気がします。

物事があまりに早く進みすぎ、商売に成功すると、物事の判断基準がすべてお金であるかのような価値観を生みかねません。いわゆる「成り金」こそすべてであり、お金が「すべて善」であるかのような感覚です。特に経営者にそのような価値観、思想があるならば、恐らく会社そのものも同じような価値観に染まっていくでしょう。そのなかで従業員も育てられていきます。翻ってみれば、従業員はその程度の成り下がった人間としてしか、経営者を見ていないということになります。だから、

会社が傾きかければ、その会社への求心力は著しく低下し、士気も労働意欲も消え失せ、倒産へと突き進んでいくことになり
ます。

確かに、自分ひとり、すべてが完結するのであれば、「成り金」もいいかも知れません。しかし、会社には従業員が必要で
す。金銭だけの求心力だけでは、会社を永続させることはかなり難しいと思います。確固たる経営理念のなかで、従業員一
人一人、時間をかけて大切に育ててこそ、会社も社長も従業員も豊かになるのではないのでしょうか。

お金を儲けたい、巨万の富を得たい、そう思って日々努力すれば、いつか実現するに違いありません。人は思うことをするよ
うになっているからです。

しかし、それだけを目指ると、それが実現し、満足感を得た途端、死を迎えることになるような気がします。これは、その
人の商売がいつか失敗するとか、心が空虚になり、廃人になるといったレベルのものではなく、その人が「命を落とすことにな
る」ということです。だから、お金儲けは、大変危険な行為だと思わなければならなりません。幸せになるために、お金儲け
をしようとするのに、結果として不幸を招くことになります。お金を儲けるために必要な「心がけ」があるということではないで
しょうか。この法則に反する行為をする者は、生きる資格を失うのでしょうか。

最近、私も鍵山先生の影響を受けて、事務所のトイレ掃除や近所の道路の掃除を積極的にするようになりました。「掃除力」
のことは、いろいろ言われていますが、事務所の近辺を掃除していて、多くの気づきがありました。私が普段見ている近所の
景色が変わってきたのです。これは、単にゴミが無くなって綺麗になったということだけではありません。今まで話をしたこ
ともない、知らない近所の方々が、掃除をしている私に、「こんにちは」「おはようございます」と挨拶をして下さるのです。先
日、下を向いて塵取りにゴミを入れていたのですが、ふと顔を上げると、遠くの方で私を見ておられる方がいました。一瞬、あ
れ誰かな、と思ったのですが、ニコニコしながら丁寧に挨拶をされるではありませんか。その瞬間、私も「おはようございま
す」とご挨拶をさせていただきました。正直、ビックリしました。あんなに遠いところから、私の姿を見てくださっている
は……。

このような、朝の掃除の世界は、私にとっては、全く新しい世界でした。やらなければ出会えない感動の世界の一つだと思
います。そして、今まで毎日、近所の方が掃除をしてくださっていたのだということを知り、そのような方々に感謝の気持ち
を持つようになりました。私達は、普段当たり前だと思っていることは、実は当たり前でないことも多く、やってみなければわか
らない世界がどれほど多いのか、日々痛感する次第です。世の中は、共存、共生することによって成り立っています。世の
中をすべて知り尽くしているかのようなことを言い、すべてを当り前のことのように思うのは傲慢以外の何者でもないでし
ょう。謙虚に、そして素直に生きていかなければと、恥かしながら、早40歳になった今、そんなことに気が付いたところで

人間は、本能的に、何かを欲しがらる動物だと思います。しかし、欲しいものを自分から一方的に欲しいといって、手に入るも
のはあるでしょうか。何か物をくださいといっても誰もタダではくれません。当り前の話ですが、お金を欲しいと言ってみたこ
ろで、そんな気前の良い人はそうそういないでしょう。ある女性を自分が気に入ったからといって結婚してくださいといつも
自分のことを全く知らない相手が同意してくれる訳はありません。つまり、人間が何か欲しいものを得たいのなら、何かを
与えなければならないのです。お金儲けをしたという場合を考えてみよう。お金儲けのことばかりが頭にあると、相手から取
ることしか考えないから、相手に不信感を抱かれ、全く儲けることはできません。しかし、相手に何かを(して)あげようとい
う意識があれば、それに見合ったお金がついてくるのです。ここでの重要なポイントは、普段からお金儲け以外のことに精を出
して、やらなければならないということです。そういう習慣を身につけるとのことです。その習慣がなければ、イザというとき
に、やはりお金への欲得しさを見抜かれてしまいます。そんな人へ誰が自分の大切なお金を払ってくれるのでしょうか。

「人類みな兄弟」なんてことをよく耳にします。地球上に住んでいる人間は、物事に対する価値観、考え方などは、その育っ
てきた環境などによって多少なりとも違うけれど、「喜び」「悲しみ」の感情は人間である限り同じではないかと思
います。何度か海外へ行って、肌の色や体格の全く違う人々に会い、全く別の生き物にしか見えないような人であっても、人として感じる
ことは同じなんだと、あらためて思ったりしたものです。

最近思うのは、今の時代に生きている人と、江戸、明治時代の昔に生きている人で、どれ程考え方が違うのだろうかとい
うことです。恐らく、人として殆ど変わりはないのでしょうか？生活環境やそれによってもたらされる体格や平均寿命な
ど、昔とは大きく変わっていますが、人々の感情、考え方、そして生き方などは、今も昔も何ら変わることはないのでは
ないのでしょうか？物質的に豊になり、便利になり、何か昔とは生き方、考え方が全く違って当然のように思われますが、その豊か
さ、便利さは本当に人間にとって幸せをもたらしているのかということです。人々の感情、考え方、そして生き方が今も昔も何
ら変わらないとすれば、人間の幸せを何処に求めるべきなのか、必然的に答えが出てくるような気がします。我々は一体何
を求めて生きようとしているのでしょうか？

人は、自分の経験、体験がなければ、他人の気持ちが分からないものです。これは、教えられてもなかなか分かるものでは
ないでしょう。「お客様を大切にしよう！」「お客様は神様です！」「顧客満足を！」……そんなこと当たり前じゃないですか！と
言われそうですが、本当の意味で心に沁みて感じている人は少ないと思います。

創業間もないころ、「お客さんが全く来ない…」「明日の資金繰りをどうしよう…」「お店は淋しくて、電話も来ない…」「人恋しく
て、営業の人でも誰でもいいから話がしたい…」そんな気分を味わった経営者の方は多いのではないのでしょうか。そんな体

験をして初めて本当の意味でのお客様の大切さが分かるのだと思います。お客様が来ないのを他人事のように思っている従業員に、そんな気持ちなど分かる筈もないでしょう。まず、経営者がそのような気持ち、お客様に対する感謝の気持ちを忘れないことが何よりも大切だと思います。また、創業者である一代目社長とサラリーマン社長或いは二代目、三代目の同族社長との大きな違いはここにあるのではないのでしょうか。創業者の経営理念、哲学を何処まで自分に落としこめるか、これが後継者の最大の課題であるといえます。

税理士をかえたいといって、当事務所を訪れるお客さんが増えています。その理由は、いくつかあります。まず言われるのが、「顧問料が高く、それに見合ったサービスをしてくれない。」です。これは、ほぼ100%近い確率でおっしゃられます。そして、年に何回しか来てくれないとか、対応が悪いとか、色々と気に入らない点をお話しになり、最後に言われるのが、「今の税理士さんと肌が合わない」であります。結局のところ、顧問料やサービス以前に、「肌が合わない」のです。肌の合わない税理士さんを顧問にしても、コミュニケーションがとれるはずもなく、自ら問合せや何らかのサービスしてもらおうという意欲が湧かないのは当然でしょう。そして、「人間不信」というか「税理士不信」に陥って、そういう方がうちの事務所に来られたときには、かなり威圧的な感じを受けることが多いです。「もう税理士にはダメされないぞ！」という思いをヒシヒシと感ずることがあります。

「どうやって今の先生を断ろう・・・」そんな悩みを抱きつつも、当事務所のお客様になっていただき、だんだんと話し調や表情が和らいでくると見ると、こちらもホッとする次第です。

最近、会社法により資本金の制約が無くなったことから、小さな会社がどんどん作られるようになりました。一方で、会社設立後間もなくして会社を上場させ、株式市場から多額の資金を集めてくるという勢いのある会社も数多く出てきています。しかし、それらの経営者のなかで、本当の経営者らしい経営者がどれほどいるのでしょうか。少なくとも本当の経営者とは、自分の確固たる価値観、信念、思想があり、常に、向上心を持って勉強し続ける覚悟のある人だと思っています。まずもって、本を読まない経営者は失格だと思います。テレビや新聞を見て、世間を知っても、経営のケの字すら得とくすることはできないでしょう。また、自分の会社のみを見ていても何ら新しい風は吹きません。過去の立派な経営者の心がけ、魂、人間性を知るとともに、技術的な何かを手に入れるには、読書しかないと思うのは私だけでしょうか。

人は「思うことをする」ようになっていきます。だから思わないことはやりません。単純な話です。しかし、この「思う」ということが、なかなか難しいと思います。よっぽどの動機付けがなければ、本当の意味で「思う」ということをしないからです。なかなか思っても実現しないと嘆く人もいます。「まだいいか」「でもな・・・」「そのうちに」「いつかは・・・」などという気持ちがあるうちはなかなか実現しないものです。朝、早起きしようと思って、なかなか起きれないのはこのことです。ほんとに早起きしようと思っていますか？

昔、野村克也監督が阪神の監督を辞められた時、「野球選手には体力、気力、知力、技術力のすべてがそろって一人前であるが、最も根本的な気力の面を問題にしなければならないのは寂しいことである」というような記事がありました。全く選手に前向きなヤル気が無かったのでしょうか。そんな状態でチームが勝てるわけがありません。会社も同じだと思います。まずは、如何に従業員からヤル気をださせるかにかかっていると思います。そのためには、いい雰囲気、環境をつくることも大切でしょう。すべて心の問題につながるのだと思います。私は常々、「豊かな心」が必要だと思っています。

ギスギスし、荒んだ心の状態で、一体何が出来るのでしょうか。「癒し系」などと、癒されることにお金を払う時代ですが、これは如何に普段お付き合いしている人々の心が豊かでないかを物語っているように思います。

私は仕事でよく東京へ出張することがあります。池袋などは、人が多く、何かしら汚い街で、早朝も嫌な臭いが漂ってきます。東京の人の多さ、それに伴う様々な商売を行う店の乱立、ビラ配り、ネオン、ゴミの排出など、環境問題以前の問題として、街の整備、商売の規制、再開発等の必要性を感じずにはいられません。ラーメン屋だけ考えても一体何軒あるのでしょうか？これだけあれば、ふつうにやっていたのでは絶対に儲からないでしょう。普通の商品しか出せない店は、結局値段に走るか、客を騙すような呼び込みや広告を打って集客するしか方法が無くなってきます。これをすれば、又、街が汚れてくる。そんな悪循環を感じます。ちなみに、東京で、数多くのラーメン屋に入って食べていますが、未だ「これはうまい！！」と感じるお店には出会ったことがありません。「天一」や「第一旭」いやいや「ラーメン藤」や「ビッグラーメン」などのほうが、ずっと美味しいと思うのは私だけでしょうか？今、商売をする人は、広告宣伝だけの商売をする人が圧倒的に多いような気がしてなりません。また「広告・宣伝のやり方を教えます」といった経営コンサルタントも多い。如何にして「客を騙せるか」を教えているのではないかと思うことがあります。東京はよく儲かるといいますが、単に「騙せる数が多い」ただそれだけのこと、と言うのは言い過ぎでしょうか。

ある新聞記事で読んだのですが、学校教育の改革が叫ばれているなか、公立高校の存在意義が改めて問い直されているという。学校教育における効率主義優先や経済力がなければ質の高い教育が受けられないという風潮に対するアンチテーゼとして公立高校を再評価する向きもあるようです。公立の進学校に対する期待は大きく、エリートに求められる資質として、

人のため、社会のため、国家のために尽くす「知・徳・体・バランスのとれた人材の育成」が一層求められているという。しかし、高校を選択する際に基準となるものは、その多くが大学への進学率でしょう。ましてや、「公共に対する忠誠心」を養ってもらおうなどと、誰が考えるのでしょうか。教育というもの、進学率だけではないのは当然です。日本人の愛国心のなさ、少子化などの社会問題に直面している今、教育というものの本質を見極め、学校に求める教育のあり方について親子の意識を変えていかなければならないような気がします。

「自由は孤独の裏返し、孤独に取込まれては駄目で、孤独を取込むことだ」女優岸恵子がそんなことを言っていました。自分の体験から何か感じる場所があったのでしょうか。しかし、これは、会社の経営者や個人事業主にも当てはまることだと思います。経営者は孤独です。何かあれば、すべて自分で責任を取らなければなりません。経営が順調な時は、周りに色々な人々が集まってきて、とするとチャホヤさがちですが、いざ会社が傾きかければ、取引先や金融機関、従業員までも、手のひらを返したように自分のもとを去っていきます。常にそんな孤独感に苛まされながら、経営をしていく覚悟が必要です。だから、孤独感に取込まれるのではなく、これを自分に取込んで、ある意味それを楽しむことができれば、本当の意味での経営者になれるのかもしれませんが。いざというときに、ソッポを向かれないよう日々精進すべきことは言うまでも無いでしょう。

「悪いことをすれば、バチが当たるよ。」幼い頃、そんなことをよく言われたものです。これについての理論的根拠は全くありません。でもそう言われると、何となく怖くなってやらなくなってしまうものです。最近、このようなことをいう親は、いなくなったのでしょうか？ましてや、大人の自分には、そんなことをいってくれる人は誰もいないでしょう。大人は理屈に合わないことにはなかなか耳を貸さないものです。しかし、自分の行動は、自分で制御できるものではありません。魔が差すことは誰にでもあります。どこか天国から、神様が自分の行動を監視しているでも思っておかなければ、変な方向に走ることもあると思います。やはり、悪いことをすれば、バチが当たると思っておくに越したことはないと思うのは私だけでしょうか。

「ありがとう」と「すみません」両者の言葉は、普段とてもよく使われる言葉です。また、それぞれが、同じ場面で互いに選択されて出てくる言葉でもあります。例えば、他人に何かをしてもらった時、恐縮な気持ちで「すみません」という場合もあれば、「ありがとう」と感謝の気持ちを述べる場合もあります。しかし、どちらが聞き心地の良い言葉かは歴然としています。人間は、他人に良いことをして感謝され、その言葉によって、自分も気分が良くなる生き物だといえます。恐縮されるより、感謝される方が気分がいい。

また、何か失敗して謝る場合にも、すみませんという言葉を使いますが、この言葉は、言う者の責任回避と自己満足を満たすだけで、言われた方は、それで気分がよくなることは殆どありません。どうせなら、「ご指摘ありがとうございます」「今後の運営に役立させていただきます」など、感謝の言葉、前向きな言葉を返した方が、はるかに聞いていて気持ちが良いと思います。プライドの高い人間は、もともと謝ることを嫌うものですが、このように前向きな言葉を使うのであれば、さほど抵抗を感じないでしょう。「ありがとう」を増やしていくことが、「心の豊かさをもたらす」というのは間違いではないと思います。

何事にも感謝するというのは、なかなか難しいものです。人、物、金、特に難しいのは、人に対するものかも知れません。嫌いな人、腹立たしい人、醜い人、・・・等々、どうしても感謝できない人はいます。しかし、感謝するというのは、その人のいい所を何か見つけ出すという行動を必要とします。嫌なところは見ずに、いい所だけを見る。いい所だけを見れば、腹立たしいことは起きないし、その人を嫌いになることもありません。とても心穏やかに生きていけるのです。

もし、人が皆、そのような「感謝」気持ちを持ち続けられれば、戦争などはおきないでしょう。身近なところでは、夫婦喧嘩や兄弟喧嘩などもかなり減らせるのではないのでしょうか。宗教じみた話になりますが、現代の競争社会の中で、人間的な「心」の問題は、とすると忘れ去られがちですが、人間が人間として生きていくなかで絶対に無視できない永遠の課題といえるのではないのでしょうか。

大企業の社長は、果たして「自分のため」に仕事をしているのでしょうか。創業者ならともかく、生え抜きの社長は、入社時から「会社のために」仕事をしてきた方が多いのではないのでしょうか。中小企業の社長と大企業の社長とでは、その点はかなり考え方が違っているように思います。別にどちらが良いと言うわけではありませんが、自分のために生きている社長の会社は、あまり規模が大きくならないような気がします。人間は、「自分のため」という「欲」に対して引け目を感じるからです。その引け目を感じる限り、あつかましいような営業はできなくなります。決してあつかましい営業を推奨しているわけではありませんが、自分の欲を出せば、最後の詰めが甘くなります。すると何時までたっても会社は利益がでず、大きくなりません。もう少し会社を大きくしたいと考えているならば、自分の欲を捨て、家族のため、従業員のためだけに働くことではないでしょうか。そうすれば、だんだん会社は良くなり、大きくなり、いつか自分のところに返ってくると思います。

「お客様第一主義」とても、重要な言葉だと思います。商売をするとき、これを無視すれば、どんどんお客様が不満を感じ、離れていくでしょう。しかし、この言葉を勘違いする人が多い。つまり、値段を下げるのが、「お客様第一主義」だと思ってどんどん値下げをする。しかし、これをすれば、必ずジリ貧になっていきます。値段を下げれば、それに見合うコストダウンをしない限り、収支が合わなくなるのは当然のことです。この言葉の根本は、「付加価値第一主義」だと理解しなければなりません。

ん。つまり、価格は十分儲かる水準にし、その価格を払う価値をお客様に見出してもらう。何がしかの付加価値(接客態度、言葉使い、スピード、アフターサービス、特殊技能等)を感じ取ってもらうことが、「お客様第一主義」です。値下げだけをすれば、この付加価値を与える「時間」も「お金」も無くなり、結局、お客様に不満を与えるばかりでなく、自分も従業員も苦しむ結果になることを肝に命じておかなければならない。

「焦って物事を起こそうとするのは良くない。流れのままに。」プロゴルファー宮里藍が、全米プロのカーリー・ウェブから受けた言葉です。大きなプレッシャーのあるなかで、本調子が出なかった宮里に偉大なプロからこのようなアドバイスを受け、翌週、宮里は優勝しました。流れには、人生のような大きな流れとゴルフ試合のような小さな流れがあるでしょう。そんな大小の流れをうまく感じとれるか否かが、その人の才能であり、勝敗の分かれ目になることが良くあるように思います。私がよく他人に言うことは、自分が今どん底だと感じるときは、決して新しいことを起こしてはいけないということです。開業、転職、独立、結婚といったことは御法度です。つまり、自分の波がどん底にあるときに、新しい事をしてもやはりうまく行かない。冷静に時期を見はからって、「乗ってきたな」と感じる時に、一気に呵成に勝負を賭ける。それまでは、力を温存する。これが、成功するコツであるように思います。

私は、京都市の「住まい体験館」というところで「すまいのよろず相談」というのを、年に数回、税務相談の担当をしています。税務相談の他に、弁護士と建築士が様々な住まいに関する相談に応じています。いつも思うことは、「税務相談は、静かだな〜!？」。これは、相談者が少ないという意味ではありません。弁護士や建築士の相談は、その殆どが建築に関する「苦情」だからです。ここへ来ると、ほんとに建築に関するトラブルは多いものだと思えて痛感させられます。「何とかしてあの業者をこらしめてやる方法はないものですか・・・？」なんていう話を大声で喋られるため、ブースで仕切られていても、こちらまで聞こえてきます。ある意味、気を付けるしか無いのかも知れません。話の通じない業者と議論をしたところで、時間の無駄にしかならないことが多いものです。

子を持つ親の一人として、「子供に教育を付けさせるのは親の義務である」という言葉にへんに感動を覚えました。子供は自由に育ててやりたいと思っていた私には、カルチャーショックに近い言葉でした。しかし、今の世の中に目を向けると、その義務を果たそうとする親はどれほどいるのでしょうか？放任主義の親はともかくとして、「お受験」などといって、無理やりいい幼稚園や学校に入れようとする姿があります。これは親の義務を果たしていることになるのでしょうか？確かに、いい学校へ入れることは、結果として子供に教育を付けることになるかも知れません。しかし、今の風潮はその目的を離れて、親のエゴの方が優先しているように思えてなりません。親が、自分の子供を自慢したい・・・。それは教育といえるのでしょうか？